

2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 石松 成子 / 同行調査員氏名 浜田 千里

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族との絆を大切に、その人らしく暮らし続けられるサービスとしての理念はあるが、地域密着型としての役割を目指した内容になっていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、住み慣れた地域で、その人らしく、安心した暮らしを支えるためのサービスとしての理念を作り上げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム開設時に職員全員で考えた理念であり、管理者と職員は、日々利用者に関わる際に理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ホームで開催する夏祭りには地域の人々にも参加を呼びかけ、交流を図っているが、地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割について積極的な取り組みが出来ていない。	○	地域活動の情報を集め、地域の一員として、事業所と地域の人々が支えあうような、地域活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義について、職員と話し合い、自己評価に全職員で取り組み、評価調査の過程で、自ら分析・判断し、地域との関係作りなど今後取り組むべき項目について、評価を活かして改善に取り組んでいる。		

グループホームあもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者やサービス等について報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター担当者には、毎日の暮らしの中での報告や相談、運営推進会議への参加等連携が取れており、考え方や実態を共有し、関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付時に、担当者から手紙で入居者の状況と金銭管理等の報告を行い、健康状態は電話で連絡し、受診後の報告もしている。3ヶ月に1回ホーム便りを発行し、行事の時の様子など写真等で伝えている。家族会を年2回開催し、家族と話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に相談苦情の窓口を明記し、入居時に家族に伝えている。担当者会議や運営推進会議に家族も参加してもらい、気軽に意見や不満を聞く機会を設け、介護計画やサービスの改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があつたが、利用者への影響を最小限に抑えるため、新しい職員と馴染みの職員と勤務を組むなど工夫し、リビングに職員の写真を貼り家族に紹介している。離職防止のため、面接時にグループホームについて理解してもらうよう話し、年2回は理事長と個人面談を実施している。		

グループホームあもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を受講する機会は確保されており、参加した職員は研修報告書を作成し、ホームの勉強会で他の職員に報告している。資格取得にも協力的で、職員の質の確保、向上に向けて職員を育てる取り組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会に加入しており、研修等で同業者と交流する機会がある。市内の研修にも参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に、ホームの見学を勧め、一緒にお茶や食事をしたり、職員が自宅や入院先を訪問し、馴染みの関係を作り、利用者が納得して入居できるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から郷土料理や行事料理、保存食、野菜づくりなど教えてもらいながら、和やかに生活できるように場面づくりや声かけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族からの聞き取りをするとともに、毎日の生活の中での会話などから利用者の意向や希望を聞いて、その人らしく暮らしつづけられる支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意見、毎日の記録等を元に計画書を作成し、担当者会議に主治医・家族、職員も出席し、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを実施し計画の見直しを行っている。利用者の状態変化や家族の要望に応じて、主治医等と相談し随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を聞き、通院介助や自宅訪問・墓参りの送迎支援などを行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診できるように家族に同行してもらったり、職員が通院介助したり家族と連絡して対応している。主治医の往診等もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期の対応について説明を行っている。状況の変化があった場合には、家族・主治医・看護師等と話し合い方針の共有が図られるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守ることの重要性を職員は理解しており、さりげない言葉かけや対応を行っている。記録や写真等の管理も家族の了承を得るなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事の時間などひとり一人のペースを大切に過ごしてもらっている。利用者の思いや希望を尊重し、買い物や散歩など日々のその人らしい暮らしを支援している。		

グループホームあもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を決め、買い物に同行したり、野菜の下ごしらえや盛りつけなど共に行っている。利用者と職員が同じテーブルで、楽しく食事し、さりげなく介助できるよう雰囲気づくりに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回実施しているが、希望があったり、汗や汚れなど状況にあわせて、入浴してもらっている。入浴介助も利用者の状態や意向を尊重し、介助者にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	味噌作り、あく巻き作り、そば打ち等入居者の得意なことや出来ることを發揮してもらえそうな場面を作っている。週刊誌を読んだり、ドライブに出かけたり外食など楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩は気軽に出かけ、花見やドライブなど家族にも参加を呼びかけ、外出の機会を作っている。天気の良い日は、庭の芝生でお茶を飲んだりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵を掛けないケアを実践するために、日中は居室・玄関は自由に出入りができる。道路に面した門扉は、閉じてはいるが鍵は掛けず、入居者の状態に配慮し、見守り・連携を行い安全に努めている。		

グループホームあもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回行い、入居者の安全に努めているが、災害時に地域住民の協力を得るための働きかけと災害に備えた物品等の準備ができていない。	○	避難訓練等に地域住民の参加が望まれる。飲料水や備品についても、日頃から災害に備えることが求められる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの献立や、季節の行事料理など、食欲が増すよう工夫し、入居者に合わせ刻みやとろみ食も配慮している。食事や水分の摂取状況は毎日記録し、法人の栄養士に献立や栄養バランスについてアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビング・畳の間にテーブルや椅子・テレビ・ソファが配置してあり、リビングには季節の花や飾りがある。天窓からの日差しを薄い布で調節し、適度の明るさで居心地よく過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドやタンスが持ち込まれ、家族の写真等飾り、居心地良く生活してもらえるよう配慮している。		

※  は、重点項目。